

## 大阪

地域面3ページ

## おおさか支局

〒530-8251 (住所不要)

毎日新聞社会部おおさか支局

TEL06・6346・8443

FAX06・6346・8444

メールは  
読者の皆  
マなど、【購読お  
フリご近所の  
お医者さん

579

大阪鉄道病院長 上田祐二さん ー大阪市阿倍野区

## 令和時代の社会構造変化と医療

令和時代の社会構造変化と医療について、「2025年問題」と「2040年問題」という視点で考えます。

「2025年問題」とは、この年に第一次ベビーブーム(1947~49年)に生まれた団塊の世代が全て75歳以上となり、医療や介護などに必要な社会保障費の急増が懸念される問題を指します。

これに対処するため、医療分野においては15年から各都道府県で「地域医療構想」の実現に向けた取り組みがなされ

も減少し、就業者数の大幅な減少から1人の現役世代(担い手)が1人の高齢者を支えるいわゆる「肩車型社会」に近付きます。社会保障費も25年度

に必要病床数を四つの医療機能(高度急性期・急性期・回復期・慢性期)に推計した上で、機能分化と連携を図り、公立病院、公的病院の統廃合なども含め効率的で無駄のない医療提供体制の構築を目指すものです。一方で、

就業者の5人に1人は医療福祉従事者になるとの予測もあります。担い手不足が最大の課題ですが、他方高齢者の若返りに

## 2025年問題と2040年問題

よる就業率の上昇も期待されま

制の構築を目指すものです。一方で、コロナ禍のような感染症害への備えも喫緊の課題であり、今後慎重に議論が進められると思います。

大阪に目を向けますと、中小の民間病院が多いのが特徴です。それらの病院が診療所や介護関連施設と連携を取りながら、超高齢社会にふさわしい地域に密着した医療介護サービスを提供

040年問題」に直面します。第二次ベビーブーム(71~74年)に生まれた団塊ジュニア世代がすべて65歳以上となり、高齢者全体の人口はピークに達します。それとは逆に、生産年齢人口(15歳~64歳)は25年から約17%

し知恵を出し合いながら、病院運営に携わることが肝要と考えています。(府医師会広報委員会委員)

